

2008.12.23 TUE

2009.3.22 SUN



大都市圏に創造した豊かな自然環境・第3弾

7つの川を持つまち
江戸川区

◆主な展示◆

姿を変えてきた川（川の変遷と歴史）

7つの川のレヴュー

江戸用水開門

鶴崎ビオトープ

荒川でトンボに会う

江戸川アユものがたり

水辺の鳥たち

川へ行こう!

◆映像展示◆

川をテーマとした「えどがわ区民ニュース」

世界の河川・荒川物語

◆写真展示◆

第16回全国川サミットin 荒川写真コンクール入賞作品など

★早春特別トーク「川から学ぶこと」★



武野 大 江戸川総合入生大生学芸員

高木 直樹 環境カウンセラー・NPOエドがわエコセンター事務局員

尾村 浩 環境カウンセラー・エドがわ環境教育センターのりどりの子代表

2009年2月14日(土) 午後1時～

会場：しのざき文化プラザ講義室

入場無料・事前申し込み制

(定員80名 お申し込み開始日2009年2月2日9時より)

申込先・問い合わせ先：しのざき文化プラザ事務局 TEL.03-3676-9071

しのざき



文化プラザ

しのざき文化プラザ 企画展示ギャラリー

〒133-0041 江戸川区豊洲町7-20-11 3F TEL.03-3676-9071 (代)

都立東葛分館・豊洲新西口施設
開館時間：9:00～21:30 (年末年始休館：12/29～1/1)
www.shinogaki-cultureplaza.com



「荒川」は、東京都のほぼ全域を流れる、荒川流域の約100万人の生活を支えている。荒川は、東京都のほぼ全域を流れる、荒川流域の約100万人の生活を支えている。荒川は、東京都のほぼ全域を流れる、荒川流域の約100万人の生活を支えている。

人工の放水路 「荒川・中川」



「荒川」は、東京都のほぼ全域を流れる、荒川流域の約100万人の生活を支えている。荒川は、東京都のほぼ全域を流れる、荒川流域の約100万人の生活を支えている。荒川は、東京都のほぼ全域を流れる、荒川流域の約100万人の生活を支えている。

「三ツ川」 「三ツ川」

川辺の面白コラム

●北原白秋も暮らした!小岩村

高貴な詞や歌で知られる北原白秋(1885～1942)の墓碑が、北小岩の八幡神社内にあります。理由は、白秋がかつての小岩村に住んでいたから、大正5年(1916)7月から約1年間、白秋は小岩村字三谷の菟耳草での暮らしに励み、知恵や詩の素材を得たのです。

発見地:北小岩 8-23-19



●6月が見頃となる江戸川河川敷の花菖蒲

江戸川河川敷にある小岩菖蒲園には、約100種の花菖蒲が植えられています。それら約5万本の花々が盛りを迎えるのは6月。一帯は白や紫の美しい花菖蒲で埋め尽くされます。開花時には「菖蒲園まつり」も開催されます。



発見地:北小岩西丁1丁目江戸川河川敷



協力:国そうな上手の庄

川辺の面白コラム

●川から発想を得て作られる? 匠の技



葛飾緑地近くにある「江戸扇子工房まつ井」は、京扇子とは異なり30近い工程を職人一人で作る伝統工芸。江戸扇子の技を受け継ぐ土屋、金魚やショウブなど、伝統工芸師、松井宏さんが手がけた色鮮やかな作品は、工房所の展示コーナーをはじめ、葛飾文化プラザの伝統工芸Cafeでもご覧いただけます。

発見地:北葛崎 2-24-3 ☎:03-3679-0314

●川の恩恵とともに発達した染工場!

さまざまな柄様が描かれる手拭いの製造過程において、欠かせないのが染色作業の機、形付けの機を備えた「洗い」という作業です。つまりキレイな川がなければ作ることができなかった手拭い製造において、一之江で約70年営業を続けているのが「村井染工場」です。「洗い」が終わった後、物干し台で手拭いを干した際に染め残りの染料が川に流れていきます。

発見地:一之江 6-17-27 ☎:03-3651-3108



●東大烏駅の夏のひんやり情報



都営新宿線の東大烏駅では、2007年から面白い取り組みが行われています。ずばり!「暑吹き冷却」。1番ホームの大烏寄りの道土には、種小な人工湖が噴射される装置が設置されていて、ホームで電車を待つ人をひんやり気持ちいい気分してくれます。2009年も7月中旬より8月まで実施される予定です。

川辺の面白コラム

●雨でも雪でも快適な、魚釣りポイント発見!

江戸川水門近くの葛飾街道沿いには、密約釣場があります。その名も「つりばり金ちゃん」。深海のように深い大きな釣堀には、鯉やブラックバス、ヘラブナ、ナマズが泳ぎ、雨でも雪でも曇りでも気軽に釣りが楽しめます。

発見地:葛崎町 4-33-18 ☎:03-3678-3722



●釣った魚は記念に残そう?!

釣り好きには耳慣れた話ですが「釣った魚をはく製してくれる店が江戸川区にはあります。中葛西にある「百鳥魚製はく製」店です。加工料金は30,000円から、ヤマメや鮎からキングサーモンまで、サイズはどんなものでも対応してくれます。

発見地:中葛西 1-39-15 ☎:03-3688-0210

「生まれ 広がれ 水辺のわ」

開催日時:平成21年3月27日(金)13:00~19:00
3月28日(土)10:00~19:00
3月29日(日)10:00~16:00

会場:タワーホール船堀1階展示室

内容:江戸川区の水辺で活動している団体による、展示会および懇談会(ボート、カヌー、自然遊び、ごみ拾い、自然保護活動、自然観察会の開催など)

主催:江戸川水辺の活動交流協会実行委員会
事務局連絡先:江戸川区土木部計画課水と緑の推進係(電話03-3662-8393)

川辺の面白コラム

●新中川に近い、どすこいスポット!

新中川から徒歩で西に歩いていくと、なまこ塚のちょっと不思議な建物があります。そこが知る人ぞ知る門前和漢薬屋「伊勢/和漢屋」です。土産/海産などを採出するこの和漢薬屋の和漢舎は、練習次第であれば見学可です。

発見地:春江町 3-17-6 ☎:03-3677-6860



●子どもたちに大人気!スポーツランド



くるくるんっと、東上を軽やかに舞うスケートを気軽に体験所で楽しめるのが、国立アイススケート場のある「江戸川区スポーツランド」。5月31日まで営業するアイススケートリンクは、夏になると屋内プールになります。なお、施設の外にはテニスコートやフットサルコートなども揃っています。

発見地:東葛崎 1-8-1 ☎:03-3677-1711

料金(一般):アイススケート一般当日券・入場料500円、貸靴券300円

川辺の面白コラム

●桜の新名所を賑やかに盛り上げるおまつりです!

平成15年(2003)3月に完成した桜の新名所、小岩川千本桜では毎年3月下旬に、「小岩川千本桜まつり」が開催されています。約10種1,000本の桜がいついかに咲き誇る一帯では、和服店やイベント、お祭などが催されます。

問:江戸川区生活協賛部小岩川事務所 ☎:03-3683-5183

●江戸川区全域がさくらまつりで存続!

小岩川千本桜を含む、江戸川区の30数ヶ所の公園や水辺では、3月下旬から4月中旬まで「江戸川さくらまつり」が毎年開催されています。期間中、各会場ではショーやお茶会、観音寺、草花市などさまざまな催しが開かれ、商店街もこの季節さまざまな企画で賑わいを見せます。

問:江戸川区環境促進事業部みどりの推進課 ☎:03-3662-6738

●雷公園では珍しい八重桜が見られます

東葛西の雷公園では、春、珍しい桜が見られます。淡紫色の花びらをぎゅーっとつけた「御衣黄(ぎよいこう)」という八重桜の一種、花をつけるのは例年3月下旬から4月中旬、夜になるとライトアップされ、夜桜も楽しめます。

問:江戸川水辺の活動交流協会事務局第二課

☎:03-3658-6033



BIO TOP

ビオトープって何?

「ビオトープ (Biotope)」とは、ギリシャ語の「Bios(生物)・バイオス・ビオス」と「Topos(場所)・トポス」を合わせたドイツの合成語。「さまざまな生き物があるがままに生息できる場所」を表している言葉です。都市環境においては、少なからず人間の配慮と手助けが必要です。

藤崎にビオトープが置かれたわけ

江戸川は、昔から今の場所にある、江戸川区で唯一の準自然河川と呼べる川です。2002年、その江戸川をテーマに「第11回全国川サミット in 江戸川」が開催された際、「江戸川の楽しみ方を発見しよう!」と、区民と行政が協力しあい多くのグループが、約半年間活動をしました。それをきっかけに、都立藤崎公園に近い南坂樋管に2008年夏に完成したのが、藤崎ビオトープです。もともと環境省の準絶滅危惧種に指定されているミゾコウジュが自生する場所に、「命にぞむ江戸川の復活」をめざし、国土交通省・江戸川区・市民団体が協力と協働を続け、誕生したのが藤崎ビオトープなのです。

さまざまな植物がよみがえる
藤崎ビオトープ

藤崎ビオトープは・・・

もともとある土地だけで創る

水生生物をあらかじめ取入れ、「決して他所から土を持ち込まない、出さない」など、工事は慎重に行われました。こうして完成した藤崎ビオトープでは現在、眠っていた種子が発芽したと思われる植物をはじめ、さまざまな生き物とその姿を見せてくれています。

ここです!
藤崎ビオトープ



レッドデータ 復活 植物種



ゼンジソウ
環境省ランク VI
東京都ランク D



タノノアシ
環境省ランク NT
東京都ランク A



ノウルキ
環境省ランク NT
東京都ランク D



ホンバイヌタデ
環境省ランク NT



ゴキズル
東京都ランク A



カズノコグサ
東京都ランク C



カササゲ
東京都ランク C



アゼナルコスガ
東京都ランク C

レッドデータ 復活 植物種



サンカワイ
東京都ランク C



フトイ
東京都ランク C



カワラニンジン
東京都ランク C



ミゾコウジュ
環境省ランク NT
東京都ランク A



カンエンガヤブリ
環境省ランク VI
東京都ランク A



アギナシ
環境省ランク VI
東京都ランク A



ナカボタデ
環境省ランク VI
東京都ランク B

植物を保護

レッドデータ種と思われる植物種 (確認中)

レッドデータのレベル

環境 (環境省) レベルランク
 EN - 絶滅
 CR - 準絶滅危惧
 CW - 絶滅危惧 I 類
 CC - 絶滅危惧 II 類
 NT - 準絶滅危惧
 LC - 絶滅のおそれ少ない種
 LL - 絶滅のおそれほとんどない種
 LR - 絶滅のおそれほとんどない種
 EX - 絶滅したと推定される種
 DD - 評価できない種

東京都レベルランク
 D - 野生で確認される種
 C - 50年以内の将来に絶滅のおそれがある種
 B - 絶滅のおそれがある種
 A - 絶滅のおそれがある種
 S - 絶滅のおそれがある種
 N - 絶滅のおそれがある種
 E - 絶滅したと推定される種
 X - 絶滅したと推定される種

荷風が愛した荒川・江戸川

2009年、没後50年を迎える永井荷風（1879～1959）は、耽美的な作風で明治から昭和にかけて活躍した小説家です。エリート官僚の厳格な家に生まれながらも自由奔放を好み、アメリカ、フランスに滞在した後、『あめりか物語』を発表。夜な夜な街を彷徨いながら、人気作家としてのスタートを切ります。その荷風の生涯を通しての楽しみであったのが、気ままなひとり歩きでした。本郷、小石川、麻布、銀座、浅草、玉の井—そして戦後移り住んだ千葉県市川界隈の川辺も散策の対象でした。時に江戸の昔を捜し求め、時に空想に身を沈めるため、背広にネクタイをしめ、帽子に傘を持ち、ひたすら歩いた日々。そのひとり歩きの先に、荷風は多くの文学を生み出しました。荒川や江戸川も、その荷風に愛された風景のひとつでした。

□荷風が書物に残した1文と書物名

- 「隅田川の両岸は、千住から永代の橋群に至るまで、今はいずれも散策の興を催すには適しくなくなった。やむことをえず、わたくしはこれに代わるところを荒川放水路の堤に求めて、折々杖を曳くのである。」（『放水路』より）
- 「放水路の眺望が限りもなくわたくしを喜ばせるのは、蘆荻と雑草と空との外、何物をも見ぬことである。殆ど人に逢わぬことである。」（『放水路』より）
- 「昭和二十二年九月廿三日。晴また陰。午後水害[※]のさまを見むとて市川駅に至りしが乗車券を売らざれば歩みて江戸川橋をわたり千葉街道を行く。この街道は舗装せられ地面高きため浸水せず両側の人家も無理なれど官線の駅に至る道路その他の小道は濁水人の膝を没す。」（『新編亭日乗』より） ※カスリーン台風のことと思われる。
- 「わたしは葛西村の海辺を歩いて道に迷い日が暮れてから灯火を目当にして、漸く船塀橋の所在を知り—後略—」（『遷東騎譚』より）



